2025.5 Vol.5
2025年5月20日発行

OSAKA MAFF 通信

近畿農政局大阪府拠点

中之島バラ園　母の日を祝う大阪中之島のバラ園

Topics

- 新たな食料・農業・農村基本計画が閣議決定されました
- 「大阪の都心部にコミュニティ農園誕生！」～ cotonなかせんば ～
- 大阪産（もん）の紹介
- 第２回みどり戦略学生チャレンジ近畿大会を開催しています

編集・発行

近畿農政局大阪府拠点

〒540-0008
大阪市中央区大手前1-5-44
大阪合同庁舎第1号館　6階
☎ 06-6943-9691

大阪府拠点HP

農林水産省

新たな食料・農業・農村基本計画が閣議決定されました

食料・農業・農村基本計画は、食料・農業・農村基本法に基づき政府が策定するものであり、概ね5年ごとに変更することとされています。令和7年4月11日に、令和6年に改正された食料・農業・農村基本法に基づく、初の「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されました。

新たな食料・農業・農村基本計画のポイント

○従来の基本法に基づく政策全般にわたる検証及び評価並びに今後20年程度を見据えた課題の整理を行い、**食料・農業・農村基本法を改正**（令和６年６月５日施行）。
○改正基本法の基本理念に基づき、施策の方向性を具体化し、平時からの食料安全保障を実現する観点から、**初動５年間で農業の構造転換を集中的に推し進める。**

関係者の連携による持続的な食料システムの確立

農業経営の「収益力」を高め、農業者の「所得を向上」

食料安全保障の確保

食料の安定的な供給
└国内の農業生産の増大

農業の持続的な発展

目標
○食料自給率
（・摂取ベース：53%
・国際基準準拠：45%）
＋
安定的な輸入の確保
＋
備蓄の確保

└食料自給力の確保
（農地、人、技術、生産資材）

目標
○農地の確保
（農地面積：412万ha）

○サスティナブルな農業構造
（49歳以下の担い手数：
現在の水準
（2023年：4.8万）を維持）

○生産性の向上
（労働生産性・土地生産性）
（・１経営体当たり生産量：1.8倍
・生産コストの低減：
（米）15ha以上の経営体
11,350円/60kg→9,500円/60kg
（麦、大豆）2割減（現状比））

└輸出の促進
（国内の食料需要減少下においても供給能力を確保）

目標
○農林水産物・食品の輸出額
（輸出額：5兆円）

➢農地総量の確保、サスティナブルな農業構造の構築、生産性の抜本的向上による「食料自給力」の確保

○**水田政策を令和９年度から根本的に見直し**、
水田を対象として支援する水田活用の直接支払交付金を作物ごとの生産性向上等への支援へと転換

○**コメ輸出**の更なる拡大に向け、
低コストで生産できる輸出向け産地を新たに育成するとともに、海外における需要拡大を推進

○規模の大小や個人・法人などの経営形態にかかわらず、
農業で生計を立てる担い手を育成・確保し、
農地・水を確保するとともに、
地域計画に基づき、担い手への**農地の集積・集約化**を推進

○**サスティナブルな農業構造の構築**のため、
親元就農や雇用就農の促進により、49歳以下の担い手を確保

○**生産コストの低減**を図るため、
農地の大区画化、情報通信環境の整備、
スマート農業技術の導入・DXの推進や農業支援サービス事業者の育成、
品種の育成、共同利用施設等の再編集約・合理化等を推進

○**生産資材**の安定的な供給を確保するため、
国内資源の肥料利用拡大、化学肥料の原料備蓄、主な穀物の国産種子自給、
国産飼料への転換を推進

➢輸出拡大等による「海外から稼ぐ力」を強化

○マーケットイン・マーケットメイクの観点からの**新たな輸出先の開拓**、
輸出産地の育成、国内外一貫したサプライチェーンの構築を推進

○**食品産業の海外展開**及び**インバウンドによる食関連消費の拡大**
による輸出拡大との相乗効果の発揮

関係者の連携による持続的な食料システムの確立

食料安全保障の確保

食料の安定的な供給
└食品産業の発展
└合理的な価格形成

国民一人一人が入手できる
└物理的アクセス＋経済的アクセス
＋不測時のアクセス

➢食料システムの関係者の連携を通じた「国民一人一人の食料安全保障」の確保

○原材料調達の安定化、環境・人権・栄養への配慮等**食品等の持続的な供給のための取組を促進**

○コストの明確化、消費者理解の醸成等を通じた
食料システム全体での**合理的な費用を考慮した価格形成**の推進

○**ラストワンマイル物流の確保**、未利用食品の**出し手・受け手のマッチング**、
フードバンク等の食料受入・提供機能の強化等を実施

環境と調和のとれた食料システムの確立

目標
○**温室効果ガス**削減量（2013年度比）
（削減量：1,176万t-CO_2）

➢「食料システム全体で環境負荷の低減」を図りつつ、多面的機能を発揮

○GXに取り組む民間活力を取り込み、脱炭素化、生産性向上、地域経済の活性化を
同時に実現する**「みどりGX推進プラン（仮称）」**、新たな環境直接支払交付金や
クロスコンプライアンスの実施を通じ、環境負荷低減の取組を促進

○バイオマス・再生可能エネルギー利用等の**農林漁業循環経済の取組を促進**

多面的機能の発揮

○多様な者の参画等を得つつ、**共同活動を行う組織の体制の強化**により
農業生産活動の継続を通じた多面的機能の発揮を促進

農村の振興

農業生産の基盤の整備・保全
地域の共同活動の促進
農村との関わりを持つ者の増加
└機会の創出＋経済面の取組＋生活面の取組

目標
○**農村関係人口**の拡大が
見られた市町村数
（市町村数：630）

○農村地域において
創出された**付加価値額**
（付加価値額：22兆円）

中山間地域等の振興、鳥獣被害対策

➢地方創生2.0の実現のための「総合的な農村振興」、「きめ細やかな中山間地域等の振興」

○2025年夏を目途に**「地方みらい共創戦略」**を策定し、
「『農山漁村』経済・生活環境創生プロジェクト」の下、**官民共創**の仕組みを活用した、
地域内外の**民間企業の参画促進**や地域と企業の新たな結合等により、
関係人口の増加を図り、楽しい農村を創出

○**所得向上**や**雇用創出**のため、
農泊や**農福連携**等、地域資源をフル活用し付加価値のある**内発型新事業**を創出

○**生活の利便性**確保のため、
自家用有償旅客運送等の移動手段の確保等の**生活インフラ**等を確保

○**中山間地域等の振興**のため、
農村RMOの立上げや活動充実の後押しによる集落機能の維持、
地域課題に対応したスマート農業技術の開発・導入、
地域の特色を活かした農業で稼ぐための取組を支援

国民理解の醸成　○農業等に対する**消費者の更なる理解**や実際の**行動変容**につなげるため、**食育**等を推進

詳しくはこちら（農林水産省ウェブサイト）から →
https://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/index.html

「大阪の都心部にコミュニティ農園誕生！」～ cotonなかせんば ～

令和７年３月30日(日)、大阪市中央区北久宝寺町のビル街の一画に、「都市型コミュニティ農園coton（コトン）なかせんば」がオープンしました。当日はオープン記念イベントとして、キッチンカーでのマルシェ販売や主催者、来賓者の挨拶に続き、地域の子どもたちによる「豊作祈念のスコップ入れ式」や「野菜の植付体験」などが催され、大阪・中船場界隈には、子どもたちの元気な声が響きわたりました。

coton（コトン）なかせんば

cotonなかせんばは、大阪市中央区に所在する辰野株式会社が自社用地の活用を検討し、農林水産省の農山漁村振興交付金(都市農業機能発揮対策)に応募し、その提案が採択され、みんなで共につくり、育てる都市型コミュニティ農園として整備されました。

辰野社長はセレモニーの挨拶の中で、「この農園を、遊びを楽しむ園、「遊園」として、この街で住む人、働く人、通りすがりの旅行者、ママ友やパパ友、子ども達が関係を築ける場として、土に触れることが少ない都会の中で、自然の生育を感じながら、食も楽しんでいただきたい。」と抱負を語られました。

〇豊作を祈念して

オープニングイベントでは、地域から多くの親子連れが参加し、半円形に土が盛られた畝に、豊作を祈念して子ども達が色とりどりのスコップを手にし、「スコップ入れ式」が行われました。

〇みんなで、野菜の苗の植え付け

イベントのクライマックスでは、レタスや小松菜、パセリなど200株の野菜の苗とジャガイモの種イモを地域の皆さんで一緒に植え付けました。

30センチ間隔で植え付けるのはなかなか難しく、最初は慣れない手つきでしたが、だんだんと慣れてくると、あっという間に植え付けることができました。

都市型コミュニティ農園cotonなかせんばHP　https://coton-farm.com/

近畿農政局大阪府拠点では府内の農業者等と意見交換を行っています。→

「大阪産（もん）」の紹介

大阪産（もん）とは、大阪府内で生産された農林水産物とその加工品のことです。

← 大阪産（もん）に付けられているロゴマークは、大阪もんの言い換えである「品」をモチーフに「農産物や林産物などをイメージする萌葱色（もえぎいろ）」、「魚介類などをイメージする孔雀青（くじゃくあお）」「つくり手」の温かみや情熱など「大阪産（もん）」を支える人々をイメージする金茶色（きんちゃいろ）」を３つの「円」で表し、様々な主体の活動や連携の「輪・環」を築き広げることを表しています。

季節の大阪産（もん）→

春の味覚といえば「碓井豌豆（うすいえんどう）」
大阪府羽曳野市碓井地区で誕生した碓井豌豆は、４月から５月頃に旬を迎え、皮が薄くうまみと甘みが強いのが特徴であり、なにわの伝統野菜にも登録されています。
おすすめは、豆ごはんですが、たまごとじ、かき揚げなど、色々な料理で美味しく食べられます。

第２回みどり戦略学生チャレンジ近畿大会を開催しています

「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて、将来を担う若い世代の環境に配慮した取組を促すため、農業大学校や農業高校を含む大学生や高校生等の個人・グループが「みどりの食料システム戦略」に基づいた活動を実践する機会として**「みどり戦略学生チャレンジ」**を開催しています。

《応募資格》

高校の部

高等学校、高等専修学校、高等専門学校（３年生以下）の学生により構成されるグループ又は個人

大学・専門学校の部

大学、短期大学、専門学校、高等専門学校（４年生以上）の学生により構成されるグループ又は個人

※令和７年11月30日時点で在学していること。　※農業高校、農業大学校等の農業に関係する教育機関に限りません。

《募集内容》
「みどりの食料システム戦略」に基づいた取組（調達、生産、加工・流通、消費）

取組の具体例

・調達：生産段階でのプラスチック削減、堆肥の活用
・生産：土壌分析やドローンを活用した化学肥料・化学農薬の低減、バイオ炭の農地土壌への投入技術
・加工・流通：地域の未利用資源・規格外農作物の活用
・消費：学校での食品ロス削減の取組、食品廃棄物のアップサイクル　など

取組実施期間

令和７年１月から11月までの期間（一部でも可）内に実施した取組。
※過去から継続している取組であっても、当該期間内に実施されているものは対象に含みます。

《応募方法》

令和７年４月１日～６月30日までに、参加登録フォームから申し込みをお願いします。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/kankyo/midori_challenge.html

▶問合せ窓口

農林水産省近畿農政局
075-414-9036　企画調整室
075-414-9722　環境・技術課
Kinki_midori_challenge@maff.go.jp

地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見等がございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまで連絡ください。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。
TEL：06-6941-9658　Email：hotline_kinkiosaka@maff.go.jp